

国語 (五十分)

(注) 答えはすべて解答用紙に記入すること。

令和三年度 神村学園中等部入学者選抜学力検査問題 【一般Ⅰ】 その一

一 次の文章は、江戸時代の学校である「寺小屋」について説明した文章である。これを読み、あとの問いに答えなさい。(設問の都合上、文章を改めた部分があります)

さてさて、江戸時代になると日本でも、貴族や武士ではないふつうの家の子が学校に通う時代がやってきます。その学校の名は「寺子屋」。鎌倉時代からお寺で子どもたちに勉強を教えたことが、名前の由来だそうです。寺子屋は江戸時代の後半からどんどんさかんになってきました。なぜでしょうか？

江戸時代といえれば天下太平<sup>①</sup>、国内はもちろん外国ともいっさい戦争をしていませんでした。そのため、出番がない武士よりも町人、とくに商人たちが力をつけるようになります。江戸や大阪、京都のような大きな都市では商売がさかんになり、商売に欠かせない、文字を読み書きしたり、帳簿をつけたり、そろばんを使って計算したりする力をつける場所が必要になってきたのです。町人たちは、自分の子どもが勉強する学校として寺子屋をつくっていききましたが、しだいに農村にも広がり、江戸時代の終わりごろには全国に1万軒以上あったといえます。9歳から11歳の間に通いはじめるのがいいとされていました。

寺子屋をつくることや、運営することに幕府や藩はまったく関わりませんでした。町人や村人が先生をさがってきて寺子屋を開いたり、お坊さんや医者が自主的に開いたりしていたのです。だから今でいうと、小学校というよりも塾。行かなきゃいけない決まりはありませんでした。

寺子屋での勉強の特徴は3つあります。まずは、今でいう「個別指導」の方法。寺子屋で勉強する時間は、基本的に自由！当時の子どもはみんな家の手伝いをたくさんしていたので(エライ！)、午前中に手伝いをする子は、午後から寺子屋に行つて勉強したのです。寺子屋が開いていたのは、だいたい午前8時ごろから午後3時ごろまで。江戸時代の時刻では、午後3時前後は「八つ」とよばれていました。今でも学校から帰ってきて午後には食べるお菓子を「おやつ」といいますね。これはこの「八つ」が由来になっています。寺子屋に行くと、先生はそれぞれの子どもの進み具合に合わせて指導し、生徒は別々の勉強をしていました。みんなで同じ授業を聞くことはありませんでした。男女でも学習内容がちがっていて、女の子は裁縫や琴も習っていました。

ふたつめの特徴は、大人になって役に立つことを優先的に教えていたこと。「読み書きそろばん」といって、まず教科書を読むために字や言葉を覚え、習字をたくさんして手紙や帳簿を書けるようにします。そして、電卓などの計算機がない時代には欠かせないそろばんを習って、早く計算ができるようになっていったのです。とくに商人の子は、そろばんに力を入れていました。

最後の特徴は、徹底的にくりかえして勉強したこと。商人の子は『商売往来』、大工の子は『番匠往来』、農民の子は『<sup>※2</sup>往来』といったように、それぞれの職業に必要な内容が書かれた往来物(教科書)をもっていました。これらを使った読み書きの練習を、1日50回くりかえすとよい、とされていたのです。

※1 帳簿 … お金と品物の出入りを記録するノートのこと。  
※2 番匠 … 大工のこと。

〈 斎藤 孝『日本のもと 学校』より 〉

- 1 — 線①「天下太平」の意味としてもっとも適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。  
ア 世の中がよく晴れていること      イ 世の中が平和であること      ウ 世の中がとても広く大きいこと

2 — 線②「個別指導」について、次の各問いに答えなさい。

- (1) その指導方法の特徴について、次の文章の(A)・(B)にあてはまる言葉を、それぞれ二字で文章中からぬき出しなさい。

生徒は、自分の生活にあわせて(A)な時間に寺子屋へ行って勉強した。  
先生は、子どもの勉強の進み(B)に合わせて、それぞれ別々のことを教えた。

国語 (五十分)

(注) 答えはすべて解答用紙に記入すること。

(2) 「個別指導」を行っていた理由について、もっとも適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 勉強する時間が限られていたため、みんなと同じように授業を受けられなかったから。
- イ 個人のレベルにあわせて学習する場合、個別に教えてもらう方が分かりやすかったから。
- ウ 家の手伝いをしながら寺子屋に通い、それぞれ自分の進度に合わせて勉強していたから。

3 線③「大人になって役に立つこと」について、当時の先生は、それをどのようにして決めていたと考えられますか。次の文の( C )にあてはまる言葉を二字で書きなさい。

大人になったら商人になる子には「そろばん」の勉強を……というふうに、将来の( C )に合わせて決めていた。

4 文章中の【 \* 】にあてはまる言葉としてもっとも適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 百姓
- イ 漁師
- ウ 教師

5 線④「1日50回くりかえすとよい」について、何をくりかえすのですか。十五字以内で書きなさい。

6 江戸時代に「寺子屋」が数多く設立されたのはなぜですか。三十字以内で説明しなさい。

二次の文章は、主人公の佐緒里が同じクラスの伊藤と森田のケンカについて、伊藤から話を聞いている場面です。これを読み、あとの問いに答えなさい。(設問の都合上、文章を改めた部分があります)

「知ってるか？ 森田って、すごいボール投げんだぞ。ドッジボールでき。あの目で【 I 】とにらんで、それで【 II 】と横投げされたら、もうだれもよけられないんだ。おどろくぞ、とにかく。」

べたぼめって感じだった。何時間か前には大げんかしてたくせに、へんなのって思った。

その横投げつてのは見たことないけど、森田くんが目線のインパクトだけはわかる。彼の目つてときどきだけ不思議な感じになるんだよね。

転校してきたときにも、あれこれうわさになってたし、たぶん前の学校でもいろいろあったんだと思うなあ。

「そんな森田くんがさ、なんで伊藤くんがボールをぶつけてきたの？ しかも、顔面をねらったんでしょ？」

「うん。間違まちがいなくそう。あいつ、最初からおれをねらってた。だからおれも、カーツとしちゃってさ、気がついたらとびかかってたんだ。そしたら、あいつ、チビのくせに力っこう強くてさ、なかなかやるっていうかさ……。」

ケンカ相手のことをなんだかんだいってほめてる伊藤くん。素直すなおな子なんだよなあって思った。

「教えて。森田くんはさ、なんで伊藤くん②にそんなことしたの？ あいつ、伊藤くんにうらみでもあったの？」

「それはさあ……。」

伊藤くんはまたまた口ごもってしまった。よほど話したくないことなんだなあ……。  
でも、しばらくすると思いつつ口を開いた。

「あいつさ、おれととっくみあいになったとき、ずっと叫さけんでたんだよな。『おまえが張本人ちやうほんにんなんだぞ！』って。」

「張本人って、つまり、なにかを引き起こした中心人物ってこと？」

「うん。そういうことになるのかなあ……。糸川をいじめてる張本人がおれだって、あいつ、叫さけんだ。おれさ、そんなことしてるつもりなんかぜんぜんなかったのになあ。」

顔の傷を指でさわり、伊藤くんはちよつと顔をしかめた。

「でもさ、考えてみればおれ、糸川のことを毛嫌けきらいしてたのかもしれない。やっぱり、苦手なタイプだし。それで、富沢とみざわとか黒木くろきが糸川をいじめるのをけっこう楽しんでたのかもな。見て見ぬふりしてさ、止めようともせずさ……。」

「じゃあさ、森田くんは、糸川くんがいじめられることを怒おこって、伊藤くんにくつつかかったってことなの？ いじめを止めよ

国語 (五十分)

(注) 答えはすべて解答用紙に記入すること。

うとしたってことなの？」

「まあ、そうなんだろうなあ……。」

そんなことってあるんだ……。

なんだか信じられなかった。あのたよりない 森田くんが、そんなことをしようとするなんてさ。

もしかして、森田くんって人一倍わかるのかもしれない。なんていうか、人の痛みっていうか、悲しみっていうか。今まで、嫌な目にいっぱいあってきたからなんだろうなあ。

なんだか、体の奥から、少しずつ力がわきあがってくるような気がした。だって、別にライバルってわけじゃないけど、森田くんには負けられないって思ってしまった。

「じゃあ、うちもやんなきゃ……。」

気づいたときには、そうつぶやいていた。

〈 福田 隆浩『ブルーとオレンジ』より 〉

※ 糸川・富沢・黒木 …… 佐緒里や伊藤、森田と同じクラスの男子。

1 文章中の【Ⅰ】【Ⅱ】に入る語としてもっとも適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア びゅっ イ そっ ウ じっ エ きゅっ

2 線①「へんなの」について、何が「へん」のですか。次の文の( )に当てはまる言葉を、それぞれ四字で文章中からぬき出しなさい。

何時間か前には森田くんと( A )していたのに、今は森田くんと( B )していること。

3 線②「そんなこと」を説明した次の文の( )にあてはまる言葉を文章中からそれぞれ四字でぬき出しなさい。

( C )が、最初から伊藤くんを( D )投げたこと。

4 線③「おまえが張本人なんだぞ！」について、森田くんが伝えたかったことは何ですか。人物名を分かりやすくしめしながら、二十五字以内で書きなさい。

5 線④「うちもやんなきゃ……」について、何をしないといけないと思ったのですか。佐緒里が、クラスで仲間外れになっている陽菜ちゃんについて悩んでいたことをふまえて、もっとも適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 森田くんを見習って、陽菜ちゃんとなかよくすること。

イ 森田くんを見習って、陽菜ちゃんを助けること。

ウ 伊藤くんを見習って、陽菜ちゃんとなかよくすること。

エ 伊藤くんを見習って、陽菜ちゃんを助けること。

6 伊藤くんについて、次の各問いに答えなさい。

(1) 伊藤くと糸川くんの関係について、もっとも適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 伊藤くんは、糸川くんをすごい人物だとみとめていた。

イ 伊藤くんは、糸川くとクラスで一番親しい関係だった。

ウ 伊藤くんは、糸川くんなよなよした性格を嫌っていた。

エ 伊藤くんは、糸川くんのことを理由もなく嫌っていた。

(2) 文章中から分かる伊藤くんの人物像について、もっとも適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア たくさんの秘密を抱えているミステリアスな人。

イ 他人がどう思っているかを気にする心配性な人。

ウ 気持ちや考えを思ったままに表現する素直な人。

エ 小さなことがかつとなつてしまう怒りっぽい人。

令和三年度 神村学園中等部入学者選抜学力検査問題 【一般Ⅰ】 その四  
国語 (五十分)

(注) 答えはすべて解答用紙に記入すること。

三 あなたは、パン屋「ピザトース島」を営んでいる店主さんです。今年の春くらいから、お客さんの数がへり、お店の売り上げが少なくなっていることが最近のなやみです。次の【資料一】・【資料二】も参考にしながら、お店の売り上げをふやすために店主としてどうすればよいか、あとの《条件》にしたがって書きなさい。

【資料一】

パン屋「ピザトース島」についての情報

- 従業員 … 店主であるあなたと、アルバイトの持谷さん。合計二人。
- 営業時間 … 午前九時から午後六時まで。  
(パンが売り切れた時点で閉店)
- 場所 … 住宅街の一面に、ひっそりとたたずんでいる、赤レンガの屋根が目じるし。
- おすすめメニュー … 外はサクサク、中はふわふわ生地のメロンパン。

【資料二】

お客さんからの声

- いつもおいしいパンをありがとうございます。このメロンパンの大ファンです。
- 夕方になると、パンが売り場にほとんどならんでいないことがある。仕事終わりの楽しみなので、パンの品ぞろえをよくしてほしい。
- 一つ一つのパンの値段が安くて助かっています。子どものおやつにぴったり！
- 先日知り合いに紹介しました。こんな素敵なお店を知らない人が多くてびっくり！

《条件》 ○四行以上五行以内で書くこと。

- 原稿用紙の使い方にしたがって書くこと。
- 売り上げをふやすための「具体策」と「具体策によってどうなるか」を書くこと。

四 次の各問いに答えなさい。

(1) 次の——線部分の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。

- |              |              |               |
|--------------|--------------|---------------|
| ① 静かな暮らし。    | ② 公平に裁く。     | ③ 文字の誤りを正す。   |
| ④ 貴重な体験をする。  | ⑤ 洗練された文章。   | ⑥ 並木道を歩く。     |
| ⑦ ワカい馬に乗る。   | ⑧ 山の空気をスう。   | ⑨ ウチュウへ旅立つ。   |
| ⑩ 適切なシヨチをする。 | ⑪ 禁止クイキに入るな。 | ⑫ 役割をプリンタンする。 |

(2) 次の漢字の部首名をひらがなで書きなさい。

- ① 週      ② 投      ③ 節      ④ 顔

(3) 次の①～④がそれぞれ下の意味を持つことわざ・慣用句となるよう、もっとも適切なものを次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- |                                     |
|-------------------------------------|
| ① ( ) ( ) が回る … おしゃべりなこと。           |
| ② ( ) ( ) がかかる … 世話がやけること。          |
| ③ 馬の ( ) ( ) に念仏 … いくら意見しても効果がないこと。 |
| ④ ( ) ( ) 元を見る … 相手の弱みにつけこむこと。      |

ア 足      イ 目      ウ 舌      エ 手      オ 耳